

天然成分100%の消臭液「きえーる」と 自然公園財団との始まり

環境大善株式会社 マーケティング室 山田雄大

始まりは

二〇〇〇年ごろ、当時の株式会社環境ダイゼン社長、窪之内自然公園財団の担当者より一本の電話が入った。

内容は、「汲み取り式トイレの臭いに効果的な消臭液はないか」とのこと。担当者がなぜ弊社に連絡をいただけたかというと、以前テレビで弊社商品が紹介されていた番組を見て知ったためである。しかし、さらに元をたどると、自然公園財団の担当者は上高地の事業所より「トイレの臭いに困っている。効果的な消臭液はないか?!」との問い合わせがあったようだ。

上高地とは長野県にある登山や観光地として有名な山岳リゾート

地である。登山を趣味にしている方や、国立公園を良く知っている方は分かると思うが、そういった場所のトイレの多くは汲み取り式トイレである。

汲み取り式トイレとはいわゆる「ぼっとんトイレ」のことである。

汲み取り式トイレは定期的にバキュームカーで糞尿を汲み取っているが、どうしても臭いがきつくなってしまう。水洗式でも場所によってはきつい臭いを放つトイレもあるのに、汲み取り式となればその臭いはさらに強烈であると容易に想像できる。

そんな臭い問題と隣り合わせのトイレの消臭について、自然公園財団の担当者が弊社に連絡をくれたのはやはり、地球環境を考慮してのことだと思う。

なぜか？ 弊社の製品は牛の尿

を原料として生産している天然成分100%の安心な商品だからである。河川の水質に悪影響を及ぼすと言われていた牛のおしっこを無害化して、また自然に還元するという点はまさにアップサイクル型循環システムである。

昨今、持続可能な社会を目指すためにSDGsの取り組みが注目されている背景の中、弊社製品の製造方法が地球環境に優しい仕組みであることは誇りに思う。

山間部や国立公園には汲み取り式トイレがたくさん存在している。その汲み取り式トイレ独特のきつい臭いの消臭に、地球環境を考慮した弊社製品が少しでも多く使用していただけるよう今後も地球環境を見つめながら邁進していきたい。

地球に優しい天然成分100%の消臭液として、数ある消臭液の中から、環境を考慮した弊社製品に興味を示していたいただいた自然公園財団には感謝している。



阿寒摩周国立公園・屈斜路湖の汲み取り式トイレ

弊社商品の立ち上がりは お客様の苦情が発端

創業者の窪之内覚は、北海道北見市の出身。地元のホテルセンター「ダイゼン」の店長であった。

ある日、お客様から「どの消臭液を買っても臭いが消えない！」とのクレームが寄せられた。

土地の広い北海道では、犬を飼っている家がとて多く、犬たちが道端にしたおしっここの臭いが地元民の悩みの種であった。良い消臭液がないため、クレゾールなどの薬品を使用する人もいたとのこと。

「大手メーカーの商品はみんな揃えてあるのに」と、窪之内は不思議な気持ちになったという。そして代表的な商品を集めて試したところ、臭いは消えず…。これではお客様が怒るのは無理もない。それから窪之内の消臭液探しが始まった。さまざま展示会に足を運んで、本当に効果のある消臭液がないか探した。しかし二年間探し続けても、良い商品にはめぐり逢えなかった。

ある日、地元の酪農家の友人がボトルに入った茶色い液体を持ってお店に現れ、「これをお店で売っ

てくれないか」とのこと。聞いてみると、「牛の尿を乳酸菌で分解した液」と言う。

牛の糞尿の処理は、当時も現在も公害問題である。

悪臭に加え、土中に染み込んだ尿が付近を流れる常呂川に流れ込み、汚染が広がっていた。

そのため国と北海道、そして農協と酪農家が協力し、糞尿処理が進められていたが、その処理設備は酪農家自身も多額の費用負担を伴うものであった。

経営を圧迫しかねないとの心配から、処理済みの液体を販売できないかと、相談にやってきた友人は「まったく汚くないし、植物の活性剤になる。園芸コーナーで売って欲しい」とのこと。

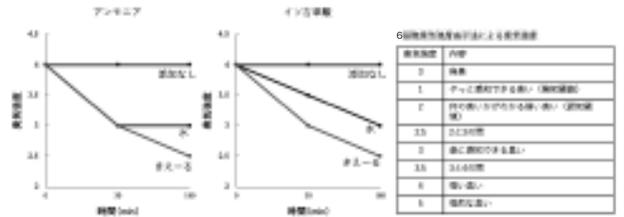
もともと窪之内は農家の出身だったので、確かに園芸には使えそうだなと思った。しかし、冬の長い北海道では、園芸時期がとても短く、大きな収益にはなりそうもない。窪之内がその液体の臭いを嗅いでみると、驚くことにまったくの無臭。

以後、牛の尿からできた液体を用いてさまざまな実験を重ねた結果は目を見張るものであった。

ペットの糞尿や生ごみ、排水口やトイレの悪臭まで、見事に臭いが消えたのだ。

「公害の元だった牛の尿が、もしかしたら宝物になるかもしれない。酪農家の経営も助けられる。これはどうしても世に出したい」

ホームセンターのオーナーに相談したところ、「大手メーカーにない商品だから面白い」ということで、商品化の話が進むことになり、「きえーる」が誕生したのだ。



アンモニアとインゴ酢草酸の両方で水よりも臭気強度が低下
官能消臭試験(実施：近畿分析センター)

化学的検証

消臭液の効果・安全性については、日本赤十字北海道看護大学や北見工業大学、帯広畜産大学にて検証を依頼し、証明されている。

これら消臭効果の検証を経て一九九八年、一〇〇%天然成分のバイオ消臭液「きえーる」が商品化。



バイオ消臭液
きえーる屋外用

消臭効果作用の詳細については弊社研究所を中心に外部機関と連携を取りながら現在研究中である。

その後の展開

改良を重ねて商品化された「きえーる」は「公害の元が公害を制す」というキャッチコピーがつけられた。「きえーる」は、道内の新聞に掲載され、さらに全国版の情報番組でも取り上げられるようになり、知名度を上げていった。そして二〇〇六年、窪之内は独立、株式会社環境ダイゼンを設立。用途に合わせた商品をシリーズ展開し、中でも車用の「きえーる」は、その効果が認められて大手メーカーで採用された。

また、環境に貢献したいという思いから、災害時には積極的な支援を行っている。東日本震災時には、日本赤十字社からの依頼を

受けて「きえーる」を寄贈し、仮設トイレや排水、生ごみの消臭に貢献した。

熊本地震の被災地にも、いち早く「きえーる」を寄贈するなど、弊社製品は、今では海外でも注目を集めるようになった。

世界人口が増加する中、疲弊した土壌の再生は食糧生産のための喫緊の課題となっている背景があり、海外から視察団が来たり、相談を受けて世界各地に視察に行ったりすることもしばしばである。

「公害だった牛の尿は、今では魔法の液になりました。我々のような小さなところでも、みんなで力を合わせれば、びつくりするようなことができるんだ」と、窪之内は今日も笑顔ののぞかしている。



環境大善株式会社
会長 窪之内 寛

山田 雄大●やまだ ゆうだい
令和三年四月入社。幼少期から自然とふれあうことが好きで、キャンプや公園で過ごすことが趣味。地域環境を考慮した活動に力を入れている同社に共感し入社。今後も環境にやさしい取り組みに努めます。